

夢への挑戦

近江兄弟社高等学校

近江兄弟社高等学校剣道部の部旗は、中央に近江兄弟社の校章を描き、勢いよく「夢への挑戦」の文字が書かれています。平成21年4月、彦根市や近江八幡市、東近江市の各中学校で剣道を学んできた新入生6人が入部して剣道部が活気づき、顧問の先生や部員が相談し、保護者の協力を得てシンボルとなる部旗を作成したものです。また、部旗の言葉は、部員の一部が中学校時代に剣道の手ほどきを受けた戸川哲博先生に選んでもらい、東近江市在住で、八日市大風の文字も書かれている書家の中島陽子さんに揮毫を依頼したということです。「高い目標を実現するために大いにチャレンジしよう」という、高校生らしい爽やかでしかも強い心を感じさせる部旗となっていて、“Boys be ambitious”というクラーク博士の名言をも思い起こすような気がします。

ところで、この「夢」という文字の意味を詳しく知るために、いくつかの辞書を調べてみました。「大漢和辞典」で調べますと、先ず「寝てゐる時、うつつのように見る心の現象」とあり、その後いくつかの説明がしてありましたが、「理想の姿」というような記述は見あたりませんでした。一方「ジーニアス英和辞典」で“dream”を調べてみますと「睡眠中の夢」などの意味の次に「理想」「すばらしいもの」という意味があり、「ジーニアス英和辞典」で“yume”の項には“dream”以外に“ambition”という単語を使用して「夢」を表現する文例も見られます。今日、日本でこの部旗のように「夢」と言う言葉を「理想の姿」「高い目標」という意味で使用するようになったのは、西洋文化が日本人の言語生活の中に溶け込むようになった、明治時代以降のことなのかも知れないと思いました。

近江兄弟社高校の部員は、この部旗のもと、志高く活動していることと思います。